



明日香村教育委員会「高松塚古墳壁画 西壁女子群像」

第五号 平成30年8月1日 衿あわせ

衿あわせ

いかに湖の池の衣。  
 エレベーターに乗る来たカワグルの女性  
 の衿を見て「うと」した。  
 左前たつたのだ。  
 きものゆえ乃の衿合わせは右衿を  
 先にまちやせし左をまちせすの加右す。  
 前左に左をまちやせし右をまちやせすの  
 左す。右襟着法左襟着法と呼ぶ。  
 彼女の前左をまちやせしした。  
 衿は納女をちりりと手振きして

「衿合せか逆さすよ。直してあげようよ  
 うか。すくまきまきすよ!!」

彼女「はへー!?」  
 彼は意味かちさうかい。  
 おは。柱の環を。右衿・左衿の説明を。とや  
 げた。彼女「彼を見あげて」  
 「とさする???。今日はうらままでい  
 良きよの」  
 とまそ行そしうた。  
 うらままでい良きよの。

アビカ 四×四

日本のきもの 衾令では、昔は、その  
 日の氣分をいかにいかにけいはい。  
 遠い昔は、日本の左衽だった。何故か  
 また、右衽令の中を、今日のように、右衽  
 にしたのさうだった。

西暦十九年、之正天皇の、養老三年二月  
 三日に出た、衾令に、こう記すといふ。  
 初令、天下百姓、右衽と日本書紀に記す  
 のといふ、過去、左衽だった衾令では、昔は、  
 時をへて、右衽に変わった。

昔に、一三〇〇年か、衾令では、右衽を  
 穿り、いけることをいふた。  
 西暦五世紀の頃、輸平には、多く、左衽の  
 衾と、いふか、また、中国にあり、た、右衽の、着良  
 法は、早く、中国の、先人達の、着良法に見ら  
 れ、日本の、左衽から、右衽に、移して、ゆく  
 高松塚の、西壁の、四人の、女性像を見ら  
 と、左衽の、あつた、こと、明らか。  
 二二〇〇年頃の、湖原省、馬王堆、漢墓に  
 見つけた、女性、卒追も、右衽に、着て、いる

し、副衣名の、二六、六体の、木桶(人形)  
 も、右衽に、着て、いる。  
 日本では、理衣、御遺体を、棺に入れた、時、  
 まよう、かた、いら、(かた、之、自、い、き、も、の)  
 を、左衽に、着せる、習陽がある。  
 長女の、衣、左衽の、ゆた、の、お、娘、さん、の  
 衣、に、い、え、ら、左衽に、着て、いた、か、衾令、せ、を  
 と、その、日、ひ、人、は、7、い、わ、い、に、昔、が、か  
 ら、と、昔、を、ま、る、い、こと、か、あ、る、。

びわ湖の花火の夜。

エレベーターに乗って来た カップルの女性の衿を見て はっとした。

左前だったのだ。

きもの・ゆかたの衿合わせは 右衿を先にあわせて左をあわせるのが、右前。

逆に 左をあわせて 右を あわせるのを左前。

右襟着法(うじんちやくそうほう) 左襟着法(さじんちやくそうほう)と呼ぶ。

彼女は逆に あわせていた。

私は彼女を ちょっと手招きして

「衿合せが逆ですよ。直してあげましょうか、すぐ出来ますよ！！」

彼女はへえー？

彼氏は意味がわからない。

私は 柱の横で、右衿、左衿の説明をしてあげた。彼女は 彼を見あげて

「どうする??今日は このままで良いか 良いです」

と言って行ってしまった。

このままで 良いわけは無いけど。

日本のきもの 衿合せは 実は その日の気分で 良いわけではない。

遠い昔は 日本も 左前だった。何度も出た衣服令の中で 今日のように 右前にととのえられた。

西暦七百十九年、天正(げんしょう) 天皇の養老三年二月三日に出た 衣服令(えぶくりょう)に こう記されている。

初令 天下百姓 右衿(天下百姓をしてえりを右にせしむ)と続日本紀に記されている。過去 左前だった衿合せは 実は時をへて 右前になった。

実に 一三〇〇年も 衿合せは 右前を守りつづけることになった。

四～五世紀の埴輪などには 多く 左前も見られるが、先に中国にあった 左前の着衣法は 早く 中国の先人達の 着衣法に見られ 日本も 左前から 右前に 移ってゆく。

高松塚の 西壁の 四人の女性像を 見ると 左前であったことがわかる。

二二〇〇年前の 湖南省 馬王堆(まおうたい) 漢墓(かんぼ)に眠って 女性 辛追(しんつい)も 右前に 着ているし、副葬品の二六六体の 木桶(もくよう)(人形)も 右前に着ている。

日本では現在 御遺体を 棺に入れる時 きょうかたびら(経帷子:ひとえの白いきもの)を左前に着せる 習慣がある。

花火の夜 左前のゆかたのお嬢さんも 知らないから 左前に着ていたが、衿合せをとっても 日本人はいていねいに 昔ながらを 守って来ていることがわかる。